第 58 回講演会＜2019 年 7 月 3 日開催＞

ラグビーを知ってワールドカップを楽しもう！！
オセアニア地域のラグビー選手における パフォーマンスの特徴

木内　誠

■講演者……木内　誠（本学非常勤講師）、小野塚和人（本学英米語学科講師）
■司　会……小野塚和人

1.　はじめに

神田外語大学 GCI キャンパス・レクチャーにお招きいただきまして誠にありがとうございます。今回は目前に迫ったラグビーワールドカップに向けて、少しでも皆さんにラグビーを知ってもらいたいと思います。そこで、本講演の流れは、先ずはラグビーそのものについて少し解説をさせていただき、その後、小野塚先生のお話を引き継ぎまして「パフォーマンスから見るオセアニア地域の選手の特徴」についてお話しさせていただきます。それでは宜しくお願い致します。

2.　ラグビーについて

2.1.　ラグビーとは

ラグビーには①ラグビー・**ユニオン**と②ラグビー・**リーグ**の 2 種類の競技があります。皆さんがイメージしているラグビーとはラグビー・ユニオンのことを指しており、日本ではこちらの方に馴染みがあると思います。ちなみに 9 月から日本で開催されるラグビーワールドカップ 2019 はラグビー・ユニオンの大会です。今回はこのラグビー・ユニオンについて解説していきます。ラグビー・ユニオンの中にも 2 つの競技があります。それが 15 人制ラグビーと 7 人制ラグビーです。この 2 つの相違点については図 1 に示していますが、ほとんど同じルールで、同じ大きさのグランドで試合が行われます。15 人制はラグビーワールドカップを行う競技で、7 人制は夏季オリンピックで行われる競技となっています。私たち日本人が持っているラグビーのイメージは“ 激しくぶつかり合うスポーツ ”だと思います。この激しくぶつかり合うラグビーこそが 15 人制ラグビーです。15 人制は 7 人制と比較すると試合でのコンタクト数（タックルなど）も多く、激しいスポーツです。したがって 15 人制は試合での体力の消耗が激しいため、次の試合を行うまでにある程度の期間を置かなければならず、大会の期間が長期化することから、オリンピック種目として採用されなかったと考えられます。また、15 人制と 7 人制の選手のパフォーマンス（試合で選手が行うプレー）としての違いは、ポジションにおける役割があるかどうかです。15 人制は**選手の役割が明確**に決まっている一方で、7 人制はポジションの役割が明確ではありません。言い換えれば、15 人制の試合に出場できる選手はそのポジションの“ 専門家 ”のような選手で、7 人制の試合

15人制と7人制の違い
- グランドの大きさは同じ
- 適用されるルールはほとんど一緒

	15人制	7人制
人数	15人	7人
交代人数	8人	3人
試合時間	80分(40分ハーフ)	14分(7分ハーフ) ※トーナメントの決勝のみ 20分(10分ハーフ)
次試合までの間隔	最低3日間	1日3試合まで

図 1：15 人制と 7 人制の違い

に出場できる選手は何でもできる“何でも屋さん”のような選手です。

2.2. 15人制のポジションとその役割について

15人制では15人の選手が10個のポジションに分かれます。また、選手の背番号もポジションによって決まっています。1番から8番をフォワード（FW）といい、9番から15番までをバックス（BK）といいます。FWの主な役割はスクラムやラインアウト（サッカーで言うところのスローイング）などで、ボールの争奪戦を行います。BKはキックやパスを使ってボールを前に運ぶ役割があります。そのため、FWは体格が大きくパワーの強い選手が多く、BKは足が速く、技術に長けた選手が多くなっています。また、細かくポジションを分類すると以下のようになっています（表1）。

背番号	ポジション		役割
1・3	FW	PR	スクラムを最前列で組む
2		HO	スクラムを最前列の中央で組みコントロールする
4・5		LO	ラインアウトでボールを獲得する
6・7		FL	攻守において ボール争奪戦を行う
8		N08	敵の防御網に突進が多い
9	BK	SH	FWとBKのつなぎ役・パスが重要
10		SO	司令塔・パスやキックの技術の高い選手
11・14		WTB	トライゲッター
12・13		CTB	敵の防御網を突破
15		FB	ディフェンスの最後の砦

表1：ポジションとその役割

このように15人制ではポジションによって選手の役割が大きく異なります。

2.3. ラグビー文化

15人制の代表戦にはその国の文化が大きく反映されています。例えばニュージーランド代表チームのALL BLACKSにはハカと言う

木内先生

踊りがあります。このハカは別名War Cry（闘いの雄叫び，鬨の声（トキの声））と言われており、先住民族『マオリ族』の民族舞踊で主に男性が踊っていました。皆さんはこの踊りを見たことがありますか？ 映像で見てみると相手を挑発しているように見えますが、ラグビーでは挑発ではなく、試合前に士気を高めるために踊っており、対戦相手に対して敬意や感謝を表したものとなっています。その他、オセアニアの国の代表チームでも、ニュージーランド代表と同様にハカのような踊りがあります。それがサモア代表のシヴァタウ、フィジー代表のシビ、そしてトンガ代表のシピタウです。また、ファンの応援にもスタイルがある国があります。それはイングランド代表の試合中に観客が唄う歌「Swing Low, Sweet Chariot」です。この歌はイングランド代表チームが良いプレーをした時や、得点をあげた時などに唄います。この様に国におけるラグビーの文化があり、各国の代表選手はその国のプライドにかけて戦っています。国歌斉唱の場面を見るとよく涙を浮かべている選手がいます。

突然ですが、ここで問題です。ラグビー日本代表のキャプテンは誰でしょうか？

1. 五郎丸　歩　選手
2. リーチ　マイケル　選手
3. 長谷部　誠　選手

正解は……②のリーチ　マイケル選手です。『ちょっと待ってくれ！！　何でカタカナの名前の選手が日本代表にいて、何でキャプテンなの！？』と思われた方もいらっしゃると思いますが、リーチ　マイケル選手がキャプテンなのです。ラグビーでは外国人選手であっても条件を満たせば、他国の代表選手になれます。その条件とは以下の通りです。

□　他国の代表選手になれる条件とは

- ✔ 代表となる国のチームに所属しており、プレー経験が 3 年以上ある
- ✔ 祖父・祖母・父・母の中に代表となる国の国籍取得者がいる
- ✔ 他国の代表として試合に出場していない

そのため、世界各国のいかなるリーグにおいても選手の多様性があります。例えば日本の最高峰のリーグである Japan Rugby Top League（以下､JRTL）では､ニュージーランド、南アフリカやオセアニア地域の国から来た選手が多く存在しており、その中には自国の代表チーム選手にはならずに日本代表を目指している選手たちもいます。このようにして外国人と日本人が混在するなど、JRTL においても選手の多様性があります。今回は選手の多様性を示すために JRTL 中から、**オセアニア地域選手**を対象にパフォーマンスの特徴を示していきたいと思います。

3.　パフォーマンスから見るオセアニア地域選手の特徴

3.1. アイランダーについてのイメージ

ラグビーではオセアニア地域（サモア､フィジー､トンガ）の選手を指して『アイランダー』と呼びます。このアイランダーの特徴について説明すると

- ✔ でかい
- ✔ つよい
- ✔ はやい

と、簡単に言い表すことができます。

これは完全に私の主観となるものですが、サモア人の選手は世界で 1 番コンタクト（タックルなどの相手と衝突するプレー）の強い国だと思います。フィジーの選手は体が大きくてスピードが速い上に、独特のリズムで動きマジシャンのようにボールを扱うため、フィジー人の選手のプレーは「フィジアン･マジック」と言われています。また、オセアニア地域の 3 国の中で最も日本のラグビーに所縁がある国がトンガです。小野塚先生の講演でもあったように、トンガ人の選手はラグビーを通して日本の学校に留学してきた初めての外国人であり、現在でも高校や大学のラグビーチームに所属している選手が多く存在しています。高校や大学のラグビーの試合を見たことのある方は、トンガ人選手の体の大きさ、パワーやスピードに驚かれたはずです。このような説明だけでは具体的な選手の特徴がわからないと思いますので、今度は選手のデータを使ってアイランダー選手のパフォーマンスについて解説していきます。

3.2.　データ分析

近年、世界の如何なる分野においてもデータの重要性が増してきています。もちろんスポーツの世界でも、試合の結果だけでなく、チームや選手がどの様にプレーをしているのかがすぐにわかるようになっています。JRTL では、スマートフォン用のアプリケーションもあり、携帯電話からでも選手のプレーデータが簡単に手に入るようになっています。今回の説明ではスマートフォンから集めたデータを使います。ラグビーはパスやキック､タックルなど複数のパフォーマンス項目でプレーが構成されているため、各項目ごとに選手の順位を示しても、パスの得意な選手がいる一方で、タックルの得意な選手もいて、どの選手にどのような特徴があるのかがわかりにくくなっています。そこで、統計を使って 16 項目のデータから選手の特徴を示す 4 つの要

因を抽出したいと思います。今回の解説で使用する統計手法は、主成分分析という方法です。主成分分析とは相関の高い項目をまとめて新たな項目をつくることができます。相関と言われてもわからない方もいらっしゃると思いますので、相関についても説明させていただきます。例えば、体重と身長の関係を見ていきたいと思います。一般的に考えると、身長が高くなるにつれて体重も増加する傾向にあると思います。このように、一方のものが上がるとそれに伴ってもう片方も上がる関係にあることを相関があるといいます。主成分分析の場合は相関の高い項目をまとめて新たな項目をつくることができるため、身長と体重の例を用いると「体格」というような新しい項目を作ります(図 2 参照)。この「体格」の数値が大きいと体格のいい人と特徴づけることができます。

ではラグビーの話に戻し、主成分分析の結果について解説していきたいと思います。縮約された 4 つの項目を見ると

第 1 項目：突進
第 2 項目：守備と争奪
第 3 項目：ボール配給
第 4 項目：ターンオーバー
となりました。

第 1 項目は、ボールを持って相手にぶつかっていくプレーを指す「突進」に関連している項目の相関が高かったため、「突進」としました。第 2 項目は、相手を止めるプレーと相手からボールを奪うプレーを指す「守備と争奪」に関連している項目の相関が高かったため、「守備と争奪」としました。第 3 項目は、味方にボールを渡すプレーやキックに関するプレーを指す「配給」に関連している項目の相関が高かったため、「ボール配給」としました。第 4 項目は、ターンオーバーというプレーのみに相関が高かったため、「ターンオーバー」としました。16 項目から特徴を捉えるための 4 つの項目にまとめることができたため、この 4 項目を使ってアイランダー選手の特徴を把握していきます。

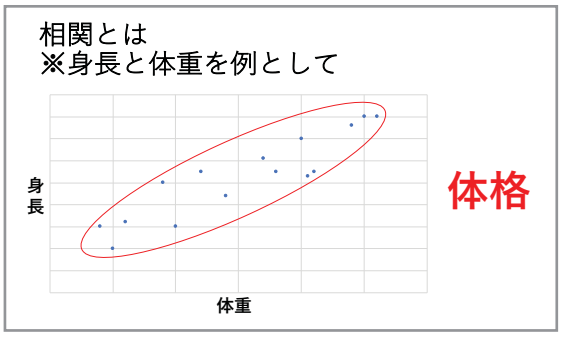

図 2：相関とは

3.3. アイランダーのパフォーマンス特徴

アイランダーの選手には得意なポジションがあります。皆さんにそのポジションの見方について説明します。ここには一つの法則があります。ラグビーのポジションには 1 つの名前で 1 人しかいないポジションと 2 人いるポジションがあることが P.2 の表 1 からわかると思います。ラグビーには縦のラインというものが存在しており、2、8、9、10、15 番の 1 人しかいないポジションが縦のラインとなります。この縦のラインのポジションにあたる選手はゲームの中でリーダーになることが多くあります。例えば 2 番の選手はスクラムやラインアウトの舵取りを行うポジションとなります。9 と 10 番のポジションは司令塔としてどのように攻めるのかを常に判断するポジションです。アイランダーが得意なのはこの縦のラインのポジションではなく、2 つあるポジションです。また、縦のポジションの中でも 8 番のポジションだけはアイランダーが多くなっています。それでは、12・13 の CTB のポジションと 11・14 の WTB のポジションの選手の特徴についてみていきましょう。図 3 は CTB と WTB のアイランダー選手とその他の選手の平均を比較した図となっています。各項目は先ほど統計を使って新たに作成した 4 項目です。実線がアイランダーで、

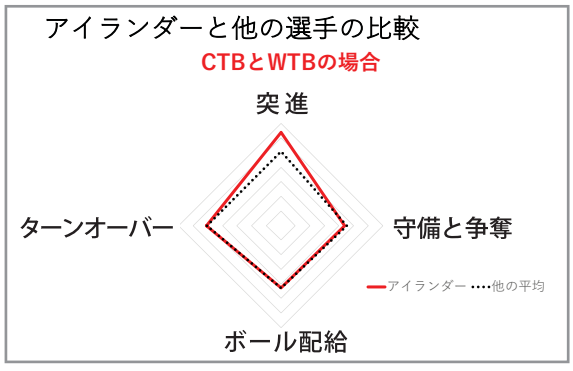

図 3：アイランダーと他の選手の比較

点線がその他のプレーヤーです。この図を見ると「守備と争奪」、「ボール配給」、「ターンオーバー」の 3 項目については同等のように見えますが、「突進」ではアイランダー選手はその他のプレーヤーよりも特徴があることがわかります。実際に「突進」の項目について詳しく見てみると、「突進」の上位 10 名中 6 名の選手がアイランダーとなっています(図 4)。今回の分析に使用した選手は 231 名で、アイランダーはそのうちの 23 名（約 10%）となっていたことから JRTL 全体を見てもアイランダー選手は「突進」が得意だということがわかります。

皆さんの持っているラグビーのイメージが「激しくぶつかり合う」スポーツであるならば、オセアニア地域の国はラグビーの強豪国と考えられると思います。しかし、現在（2019 年 7 月 2 日）の世界ランキングを見るとフィジーは 9 位、トンガは 13 位、サモアは 17 位となっており、11 位である日本代表と同等になっています。実はオセアニア地域の国はラグビーの強豪国ではありません。その理由は代表チームの選手の所属先にあります。強豪国である代表チームは全ての選手が国内リーグに所属していますが、オセアニア地域の 3 国は 90% 以上の選手が海外リーグに所属しています。アイランダーの選手は国内リーグではなく世界を股に掛け活躍しており、その中でも有望な選手は所属先の国の代表チームに選出されてしまうため、有望な選手を代表チームに選出できません。このことが代表チームの強化に支障をきたしている可能性があります。日本でも多くのアイランダーが代表に選出されており、ある試合のスターティングメンバーを見てみると 15 人中 6 名がアイランダーの選手でした。そのため、アイランダーは日本代表にとっても欠かすことのできない戦力であり、日本代表の目標である「決勝トーナメント進出」を達成するためにも彼らの活躍がカギになります。また、ワールドカップで日本代表が対戦する国や多くの強豪国の中にもアイランダーが選出されています。このようにアイランダーの選手は世界中から必要とされています。

ラグビーワールドカップは 4 年に 1 回開催されますが、日本で観られるのは一生に一回かもしれません！ 世界最高峰のラグビーを日本で観ることのできるチャンスです!! ぜひ、スタジアムでアイランダーのド迫力を堪能してください!!!

第1項目の得点の上位10名

名前	得点
トンガ人	3.94
フィジー人	3.48
トンガ人	3.00
ニュージランド人	2.98
トンガ人	2.89
トンガ人	2.80
南アフリカ人	2.54
ニュージランド人	2.44
日本人	2.38
フィジー人	2.28

図 4：「突進」の上位 10 名